

# 深まりゆく秋のなかで

安 田 美 予 子

暑く長かった夏もいつのまにか終わり、季節はすっかり秋の深まりを見せている。研究室の窓からは、なんの木であろうか、燃えるような赤に染まった木々が、仁川の川縁からは赤に黄に彩られた森や林が、目に飛び込んでくる。この夏の暑さにあえていた我が家のバラも、ある樹は小さな花々の開花を終え、別の樹はピンクの開花を迎えつつある。近年の異常気象は、ひとや動物だけでなく、木々や草花を含めた生きもの全般にとって厳しいものに違いない。そう思うと木々や草花が、暑さにやられ水涸れし、厳しい暴風雨に晒され葉や枝が傷み、加えて病気にかかり虫に襲われても、文句も言わず、じっとその場において、この季節を迎えたことに驚嘆する。木や草花はどのような環境のなかでも、おのが本分に従って、淡々と己の役割を果たしている。

翻って我が身を考えるとどうであろうか。暑い、寒い、時間がない、しんどい、たいへんだ、などこぼしている。締め切り間近を控えパソコン操作に没頭をしているときに、かまってくれとにゃあにゃあと鳴いて寄ってくる我が家の猫たちに、あっちに行けときつく言う。誰がこの家事をするのかをめぐって、家人と言い争いをする。仕事や家庭・家族のなかでの役割を果たさなければならないという名目で、自分の都合や時間を気にして段取りや予定を考え、効率的・能率的に行うことを優先する。ほかのひとの事情やペースや他の生きものの営みに合わせることを忘れ、自分本位でものごとを進めてしまう。これでは、たとえ礼拝に参列し朝に夕に神に祈っていても、いつの間にか主である神と切れてしまっている。そんな自分をときに見出し唾然とする。

一年の終わりもそろそろ見えはじめた。来月はいよいよクリスマスが、そして新年が訪れ、仕事や家庭の諸事が慌ただしく進んでいく季節である。そんな今だからこそ、ほかのひとや生きものとの営みのなかにある自分、共にある自分をかみしめ、日々を送りたい。そして主イエスが共にいてくださる平和や主の恵みを味わいながら、喜びと感謝をもってクリスマスを迎えたい。

(人間福祉学部教授)